

平成29年度卒業式 式辞

この冬は、数十年に一度といわれる寒波に見舞われ、本当に寒い冬となりました。その寒い冬も過ぎ、ようやく、校庭のあちらこちらで春の息吹が感じられる今日、この良き日に、明石市教育委員会事務局次長 根兵正邦 様をはじめ、多くのご来賓の皆様、保護者・ご家族の皆様の臨席を賜り、平成29年度「明石市立二見中学校 第70回 卒業証書授与式」を挙行できますことを誠にうれしく思います。高いところからではございますが、校長といたしまして、皆さまに厚く、御礼、申し上げます。

本日、本校を巣立ちゆく第70回生、308名の皆さん、あらためて卒業おめでとう。

皆さんは、平成27年 4月にこの二見中学校に入学しました。その時まだ、皆さんには、あどけない小学生の雰囲気があったことと思います。しかし、3年間の中学校生活で、勉強や部活動、その他、多くの体験を経て心と体を鍛え、沢山の知識や智慧を身に付けて、大きく成長した姿が、今、ここにあります。

無事に今日を迎えられたのは、皆さん自身の努力の賜物であることは間違いありません。しかし同時に、いつも深い愛情を持って育ててくださった、ご両親や家族の皆さまをはじめ、先生方、先輩、友達、そして暖かく見守って下さった地域の皆様方の支えがあったお蔭であるということも、決して忘れてはなりません。今日という日は、自分を支えてくれた多くの人に改めて感謝するとともに、四月からの新たな人生のスタートに向けた決意を、しっかりと固める日でもあります。

さて皆さん、3年間の中学校生活の中での思い出というと、どんなことが頭に浮かびますか。日々の授業や部活動はもちろんのこと、1年生の時の「スキー実習」。「わくわくオーケストラ教室」。1年生での「トライやる・ウィーク」や校外学習。中でも三年生での、東京都内やディズニーランドでの班行動を中心とした修学旅行は、思いで深いもの

となったことでしょう。

また、体育大会や文化祭では、生徒会執行部や実行委員を中心に、皆さんが下級生の模範となり、引っ張ってくれました。これら二大行事の、どの場面においても、整然とした雰囲気の中に、各クラスの団結力や仲の良さが垣間見られる、素晴らしい出来栄であったと思います。皆さんも先輩達と同じく、あるいはそれ以上に、「I ♥ FUTAMI宣言」を強く意識し、二見中学校の良き伝統を、更に前進させてくれたと私は確信しています。本当にありがとう。

さらに、部活動においては、夏の暑さにも冬の寒さにも負けず、時には先生方の厳しくも熱い指導の下、運動部・文化部ともに頑張り、多くの部が明石を代表して東播大会、県大会へと駒を進めました。そして皆さんの頑張りや、確実に後輩たちに受け継がれるとともに、目指し追い越すべき目標となっています。お蔭で、後輩たちの活躍もすごいですね。

ただし、部活動は、決して勝つことだけが目的であってはなりません。私はむしろ、勝つために努力した**日々の苦勞、流した汗や涙、身に着けた礼儀・作法、そして仲間と協力して物事を成し遂げるという大切な経験**。これらのことが、皆さんのこれからの人生において、より大きな財産になるのだと思います。そして、それらが、みなさんの次のステージで活かされなければ、部活動に打ち込んだ意義はなくなってしまいます。そのことを忘れないでください。

ここで改めて、卒業していく皆さんの今後の活躍と幸せに思いを馳せ、変化の激しい、大変な時代を生きていく皆さんに「これを大事にしてほしい」という私の願いをお話しします。

それは、つい先日まで行われていたピョンチャン・オリンピックを観ていて思ったことなのです。日本人選手たちが、目覚ましい活躍をしてくれて、私たちは大きな感動をもらいました。特にフィギュアスケートの羽生結弦選手の66年ぶりの大会二連覇の金メダルや、日本の女子スピードスケート界の悲願であった短距離500mでの、小平奈緒選手の日本人初の金メダルには、皆さんも、驚き、感動したことと思います。

